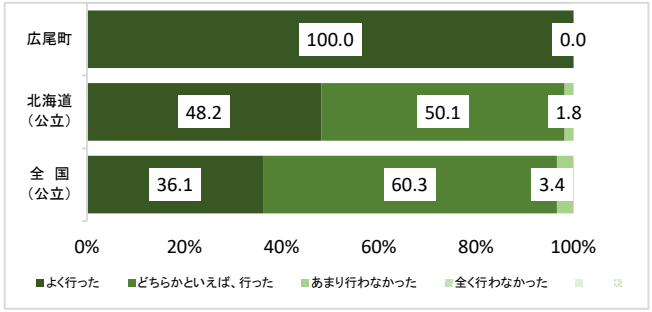
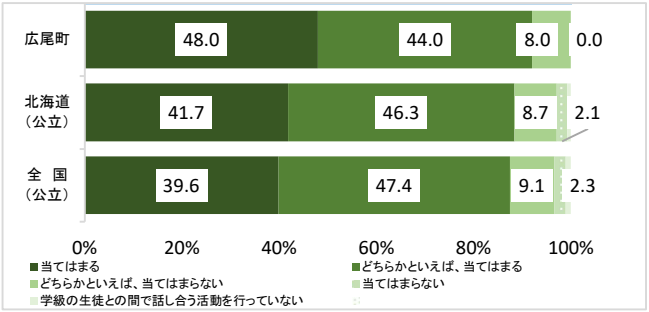
○ 質問調査の状況

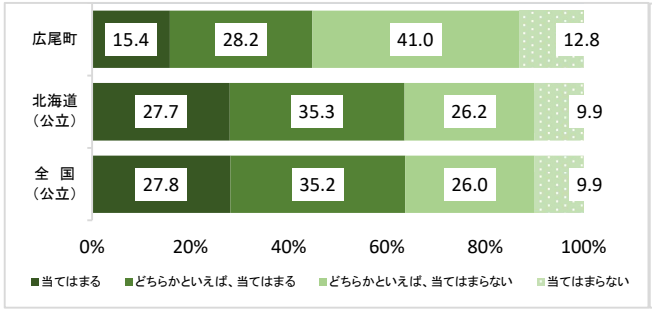
小学校
＜学校質問＞
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、国語の授業で、学習状況に即して児童のよい点や進歩の状況を積極的に伝えることを行いましたか



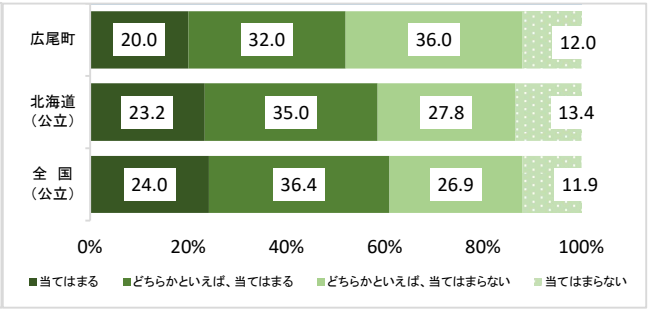
中学校
＜生徒質問＞
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



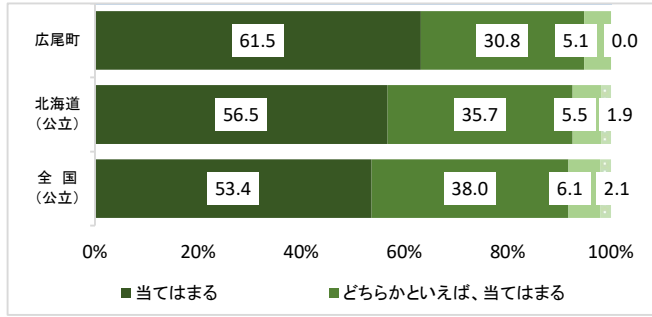
小学校
＜児童質問＞
5年生までに受けた授業では、算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか



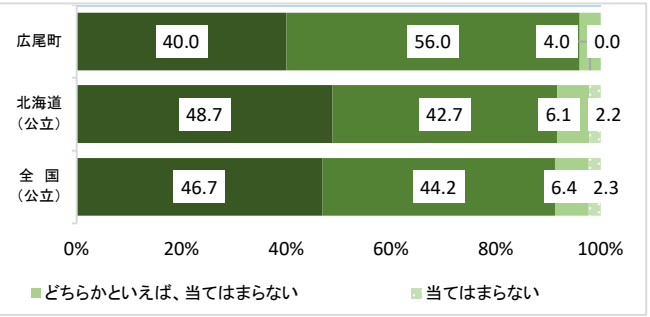
中学校
＜生徒質問＞
1、2年生のときに受けた授業では、数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか



小学校
＜児童生徒質問＞
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



中学校



○ 調査結果の分析

・ 小学校国語において平均正答率は全道・全国を下回ったが、学習状況に即して児童のよい点や進捗の状況を積極的に伝え、日頃から自分の考えを表現する学習を行ったことで、無回答率の減少傾向につながったと考えられる。
　中学校国語において平均正答率は全道・全国を下回ったが、生徒同士の対話的な学習機会を設けたことにより、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した生徒の割合が全道・全国を上回ったと考えられる。

・ 小学校算数及び中学校数学の平均正答率が全道・全国を下回っている状況は、算数[数学]の授業においてどのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていたと回答した児童生徒の割合が全道・全国を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。

・ 小学校及び中学校において受容的な関わりを行ったことにより、よいところを認めてくれていると回答した児童生徒の割合が全道・全国を上回ったと考えられる。

○ 今後の改善方策

・ ウェルビーイングに係る主観的認識のエビデンス把握に基づく子どもの姿を共通の視点とした教育活動の検証と推進

・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進、目的を明確にした言語活動の充実

・ 指導方法工夫改善加配等を活用したチーム・ティーチング、習熟度別少人数指導の充実